

事務事業名		郷土博物館学校利用推進事業					評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)	
政策体系	基本目標	4 豊かな心を育む教育・文化づくり					担当組織	担当部	教育総務部	担当課	郷土博物館
	政策	2 生涯にわたり学びのあるまちづくり						担当係		担当課長名	山口明良
	施策	2 歴史・文化資源の継承と芸術・文化活動の推進					事業区分	新規事業・継続事業		継続事業	
	基本事業	1 地域の歴史・文化の理解の促進						実施計画事業・一般事業		一般事業	
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名					
	14849	一般	10	4	4	郷土博物館学校利用推進事業					
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	H2年度～ 年度		根拠法令 条例等	博物館法 佐野市立博物館条例		市単独事業・国県補助事業		市単独事業	
							任意的事業・義務的事業		任意的事業		
							実施方法		直営		
							事業分類		教育・指導事業		
							リーディングプロジェクト		該当なし		
							市長マニフェスト		該当なし		

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)										
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)			平成26年度実績(平成26年度に行った主な活動内容)							
市内小学3・4・6年生の社会科授業補助の一環として、学習進度にあった適切な時期に博物館資料の見学や体験学習を通して、児童が歴史に関する知識の習得・佐野市に対する郷土愛を育むための援助指導を行う。当館職員その他、展示解説ボランティアの協力を得ながら、展示資料解説・体験学習の指導を行う。			・市内小学6年生の「歴史学習」での博物館利用(5～6月) ・市内小学4年生の「きょう土につくした人々」「くらしのうつりかわり」での博物館利用(10月～11月) ・市内小学3年生の「くらしのうつりかわり」での博物館利用(1月～2月) 市内の全小学校が実施…3,014人							
			活動指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			市内小学校6年生の利用校数	校	27	26	27			
			市内小学生4年生の利用校数	校	27	27	27			
			市内小学校3年生の利用校	校	27	26	27			
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)										
市内小学3・4・6年生の児童			対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(見込)	28年度(見込)	29年度(見込)	
			来館児童数		3,214	3,014	3,045			
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)										
目的			佐野市の歴史や郷土の偉人についての知識を深め、郷土を誇りに思い愛する意識をもたせる。	成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)
			利用学校数/市内学校数	%	100	98	100			
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)										
地域の歴史と伝統を知ってもらい、郷土への愛着を育んでもらう。			上位成果指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(目標)	28年度(目標)	29年度(目標)	
			博物館・美術館等を見学した市立小中学校の延べ数	校		93	50	55	55	

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費	財源内訳	単位	25年度(実績)		26年度(実績)		27年度(目標)		28年度(目標)		29年度(目標)	
			項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
投入量	国庫支出金	千円										
	県支出金	千円										
	地方債	千円										
	その他	千円										
	一般財源	千円		59	79	79						
	事業費計(A)	千円		59	79	79		0			0	
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費
			消耗品費	59	消耗品費	79	消耗品費	79				
	人件費	人		2	2	2						
	のべ業務時間	時間		100	100	100						
人件費計(B)	千円		389	394	394		0			0		
トータルコスト(A)+(B)	千円		448	473	473		0			0		

事務事業名	郷土博物館学校利用推進事業	担当部	教育総務部	担当課	郷土博物館	担当係	
-------	---------------	-----	-------	-----	-------	-----	--

(3) 事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	学校教育のよりよい援助活動ができるように平成元年度から準備を始め、平成2年度から開始した。その中で、県婦人教育連絡協議会(当時)佐野支部委員と市報を通じて公募に応募した女性たちによる「展示解説ボランティア」が結成され活動を開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	学習指導要領にも謳われているが、児童の学習内容習得のために学校と博物館との協力体制がますます重要視されている。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	博物館において歴史資料を直接見たり、触れたり、体験したりすることができるため学習効果が高まるとの意見を各学校の先生たちからいただいている。

(4) 前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(コストの見直し)	予算の増額を図ることができ、必要な材料を確保することができた。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案 小学生の時から佐野市の歴史について学ぶ場を提供することは、将来の「佐野市の歴史と伝統を理解した市民」を増やすことにつながり、結果として郷土への誇りと愛着心を育むことになる。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案 歴史資料を実際に見るといことは、小学生にとってとても貴重な体験である。子どもたちに公平で良質な学習体験の機会を提供し、郷土に誇りと愛着を持つ子どもたちを育成することは、市の責務である。本事業は公共関与が妥当である。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案 学習進度にあった適切な時期に博物館見学を行うことで、児童が佐野市の歴史や郷土の偉人についての知識を深め、郷土愛を育むことにつながる。子どもたちに公平に学習体験の機会を提供するために、市内全小学校3・4・6年生を対象にすることは妥当である。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案 児童への解説内容・方法を工夫してわかりやすくするなど、改善の余地はある。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案 類似事務事業名
	* 類似事務事業があれば、名称を記入		
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案 事業費に関しては、体験学習に必要な消耗品費のみのため削減することはできない。実際のところ、今の予算では、消耗品費が不足している。さらに人件費においても、ボランティアの方々の協力も得て、何とかスムーズに対応できているため、削減は難しい。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？ 事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	受益者負担を求める必要がない	理由・改善案 義務教育と関連のある事業であり、教育課程に基づく活動に対する入館料の減免は、社会的に当然視されている。受益者負担を求める必要はない。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？) 学習指導要領において児童の学習内容が変更にならない限りこの事業は継続される。		

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1) 今後の事務事業の方向性	(2) 改革・改善による期待効果	(3) 改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
現状維持(従来通り実施) * 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。 (複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)	<p>廃止・休止の場合は、記入不要 ×の領域は改革改善ではない。</p> <table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	×																					
	低下		×	×																					